

不動産学の魅力

明海大学 不動産学部

第113回



山口 晃司
不動産学部
2年

私は「不動産と社会の課題演習」わけではないことを実感した。

の授業を通じて、岩手県一戸町での空き家活用や地域活性化について学んでいる。一戸町は岩手県北部に位置し、世界文化遺産である御所野遺跡や豊かな自然環境など、多くの魅力を持つ地域である。一方で、人口減少や高齢化が進み、空き家・空き店舗の増加や地域の担い手不足といった課題も抱えている。

岩手・一戸町での「人起点」の不動産活用

「箱」ではなく「人」から始まる地域づくり

956年製の映写機が現在も使われている。私は当初、地域活性化とは新しい施設や事業をつくることだと考えていた。しかし、萬代館を見学したことで、古い建物や設備であっても使われ続けることで、地域の魅力や文化が受け継がれると感じた。

実際に一戸町を訪れた際、特に印象に残ったのは御所野遺跡と萬代館である。御所野遺跡はゴールデンウィーク中の訪問だったにもかかわらず、観光客の姿は想像より少なかった。世界遺産という大きな魅力があっても、それだけで人が集まる

る。これまで私は「どの建物をどのように活用するか」という建物中心の発想で考えていた。しかし本当に重要なのは、まず「どんな人が何をしたいのか」を考えることである。

人の挑戦や思いを起点に、地域がどう支えられるかを考えた上で、適切な不動産と結び付ける。空き家や空き店舗は単なる遊休不動産ではなく、

く、人の挑戦と地域の未来を支える資源になる。

り得る。

また、「よそ者が自分ごととして地域に関わること」の重要性も学んだ。私は一戸町の出身ではなく、地域の外から訪れる学生である。地域課題は地元の人だけの問題ではなく、外部の人間だからこそ気付ける視点がある。それを地域の方々との対話の中で生かしていくことができる。

るのではないかと考えている。現在、現地訪問はまだ一度しか行っておらず、活動も始まったばかりである。だからこそ、授業で学んだ「人を起点に考える視点」と「よそ者として自分ごとで関わる姿勢」を、今後の活動の中で実践していきたい。不動産学は土地や建物を扱うだけでなく、人と地域をつなぎながら社会課題の解決に取り組む学問である。その学びをさらに深め、将来は地域の挑戦を支えられる人材になりたいと考えている。

【教員コメント】

建物ではなく人を起点に考えるという視点への転換は、不動産学における重要な本質を捉えている。今後は、萬代館の事例について「なぜ継ぎ続けているのか」という運営面や地域との関係にも着目し、現地活動を通じて実践的な検証へとつなげていくことを期待している。(麻剣英)